

富山の酸性雨のうつりかわり

酸性雨の問題が広く知られるようになってから数年たちました。科学文化センターでも今から4年ほど前から、雨や雪を集めて、酸性度や中に溶けている成分の量を調べています。

ここでは、これまでに科学文化センターの屋上で調べた雨や雪の酸性度の変化、言ってみれば、酸性雨の強さの変化を見てみましょう。

酸性雨とは

酸性雨とは、水の酸性度を示す指標のpH（ピーエイチ）の数字が5.6よりも小さな雨や雪のことを言います。そして、このpHが5.6よりも小さければ小さいほど、強い酸性雨を示します。

ちなみに、科学文化センターでこれまでに観測した最も強い酸性雨は、pHが4程度です。

酸性雨は強くなっている

図-1はこれまでに調べた雨の酸性度のうち、1988年と1989年のものを月毎に平均してグラフにしたものです。月によって点の並び方はデコボコしていますが、期間中の平均では1989年の方がpHが小さくなります。

科学文化センターでの雨の平均のpHの月別変化

平均pH

1988年6月～1989年3月

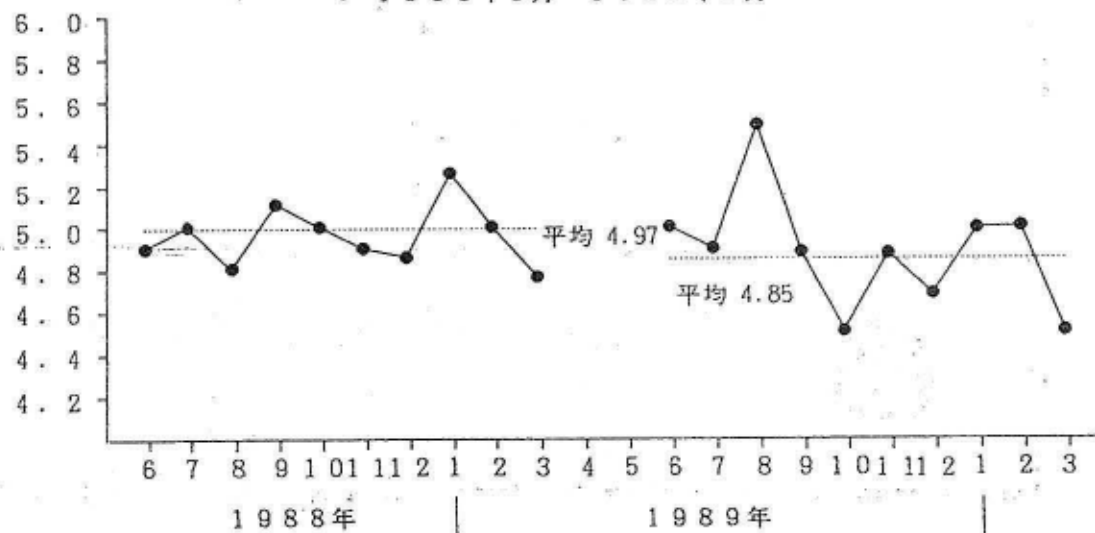


図-2は1990年と1991年のものです。春の4から6月にかけてpHは少し高くなりますが、あとは、低くなります。

特に1990年はそれぞれの月のpHの点が低めで、年間の平均も、これまでの中で最も低くなりました。

数字で見ると、1988年は6月からの観測ですが、全部の雨の平均pHは4.97、1990年は4.62となりました。

その差はたった0.35なのですが、雨の中の酸の強さで比べると、2倍も強くなったことになるのです。

1991年度は、60回近く集めた雨の中で、酸性雨でなかった雨が2回だけでしたが、年間の平均では、1990年よりも少し良くなりました。

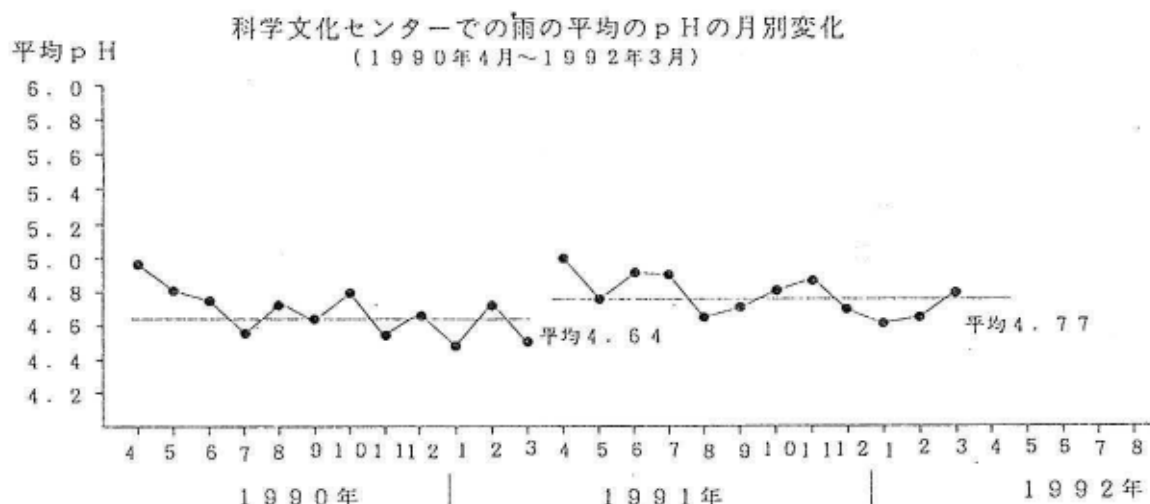
今年は、このまま、酸性雨が弱くなってほしいと思っています。

さて、昨年から行っている、科学文化センターの32万人市民による自然環境調査の空気コースのなかに酸性雨を調べるコースもあります。

これは、皆さんの自宅で雨を集めて、pHの測定セットを使って酸性雨かどうかを調べるものです。

酸性雨を調べてみたい方は、お申し込みください。

(朴木英治)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123

平成4年5月10日発行